



OCHI HOKAI

落穂会だより

社会福祉法人 **落穂会**

2023年
142号

令和5年4月1日
発行



- P1. } 社会福祉法人落穂会 児童発達支援セミナー（鈴木 久也氏）
P3. }
- P4. My Field（マイフィールド）
- P5. さんぼみち
- P6. S N A P スナップ・新成人おめでとう
- P7. TOPIX（トピックス）
- P8. Cafe NODOKA「レトルト 骨付き鶏のトマト煮込み」
ベーカリー楓 「楓オリジナル食パン」
あずもね家 「キッズパンケーキ」
ぎやらりーASAHIYA 「猫キーホルダー」

社会福祉法人落穂会

児童発達支援セミナー

「こども家庭庁」創設の背景に迫る！

これからの児童発達支援・放課後等デイサービスに求められる役割とは？

鈴木 久也氏

厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部
障害福祉課 障害児支援専門官



日時

令和5年

2月15日 水 9:50-12:00

【会場】ダイワロイネットホテル鹿児島天文館7階会議室（センテラス天文館直通）

講演

「こども家庭庁創設の背景」と

「今後の児童通所事業所に求められる役割」について



社会福祉法人落穂会 児童発達支援セミナー開催！

～こども家庭庁創設の背景と、今後の障害児支援の展望を学ぶ～



<研修概要>

日 時：令和5年2月15日(水) 9:50～12:00

会 場：ダイワロイネットホテル天文館 7階会議室

講 師：鈴木 久也氏(厚生労働省 社会・援護局障害保健福祉部 障害福祉課 障害児支援専門官)

参加者：151名(会場：44名・オンライン：107名)

主 催：社会福祉法人落穂会

後 援：鹿児島県障害福祉課・鹿児島市障害福祉課・鹿児島県知的障害者福祉協会

セミナー企画の背景

令和5年2月15日、厚生労働省の障害児支援専門官であられる鈴木久也氏をお招きし、社会福祉法人落穂会児童発達支援セミナーを開催いたしました。

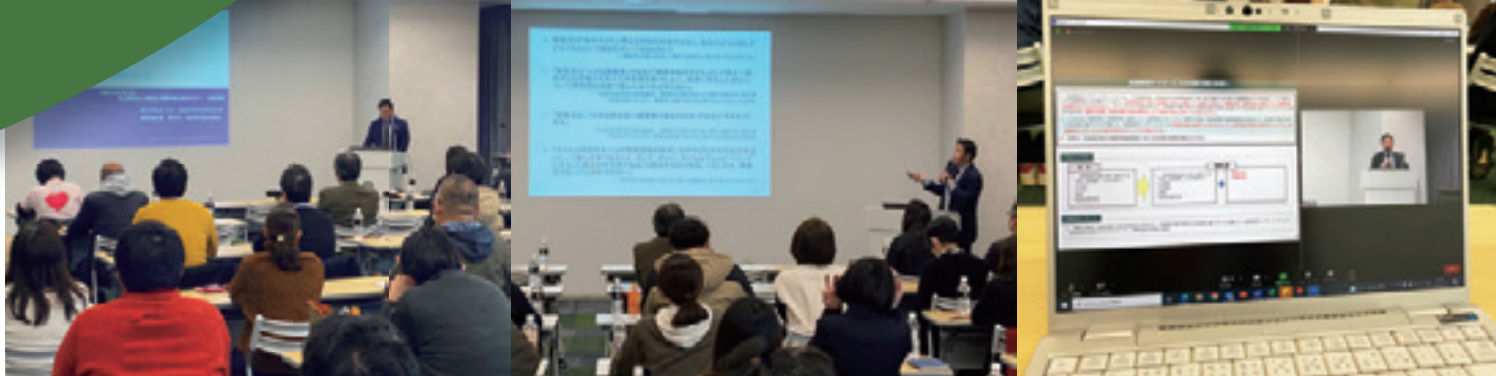
児童発達支援センターの役割として期待される「地域の中核的な役割」を果たすべく、鹿児島県内の児童発達支援・放課後等デイサービス事業所にお声がけしたところ、定員上限に迫る151名の方々にご参加いただきました。

今回の研修テーマは、「こども家庭庁創設」と「今後の障害児施策の展望」。

令和5年4月より、こども家庭庁が創設され、これまで厚生労働省が管轄していた障害児支援施策は、当庁に移管されます。

「こどもまんなか社会の実現」を掲げるこども家庭庁について、何となく知っていたとしても、どのような役割を担い、どんな具体的施策を遂行していくのか、そして、今の体制と何が変わるのかについて知りたいというニーズは高かったように伺えました。





「障害児通所支援に関する検討会」について

現在、開かれている検討会において、直近の会議で議論され、3月末に整理される報告書の素案を共有していただきました。

例えば、「児童発達支援センターを中心とした地域の障害児支援の体制整備」というテーマについては、児童発達支援センターに期待する具体的な役割を設定する方向で進めており、「併行通園や保育所等への移行の推進」や「地域の発達支援に関する入口としての相談機能」などが挙げられているようです。

その他にも、「インクルージョンの推進」や「障害児通所支援の給付決定について」「障害児通所支援の質の向上」といったテーマについても議論の進捗をご紹介いただきました。

こども家庭庁創設の背景と役割とは!?

令和4年6月15日に「こども家庭庁設置関連法」が成立し、同時期にこども家庭庁設立準備室が発足しました。

こども家庭庁は、「すべてのこどもの健やかな成長支援、誰一人取り残すことのない支援」を掲げ、こどもまんなか社会の実現を目指しています。

現在の体制では、内閣府・厚生労働省・文部科学省が各担当領域においてこどもへの施策を展開していますが、施策の管轄（責任の所在）が明確になる一方で、どうしても制度・組織・年齢による「壁」が生じてしまっているという側面があります。

当庁では、「こどもの視点」「子育て当事者の視点」を大切にしながら、こども施策の司令塔として、総合的・機動的に施策を展開していくことが期待されています。

特に、私たちが支援している「障害児」についても、個別で切り出されるのではなく、こども施策全体の中で、インクルージョンの視点から施策が展開されることが想定されます。

制度・政策の種は私たちが想像するよりずっと昔から議論されている!

鈴木氏の話で何度か「10年程前から議論されてきた」という言葉がありました。

私たちは、通常、制度・政策に変更や方針転換があった場合、変更となった「内容」に着目しますが、実は、それぞれの変更を行うために、ずっと昔から議論をし続けてきたプロセスがあることに気づかされました。

社会環境やこどもを取り巻く環境は目まぐるしく変化していく時代になり、求められる支援やサポート体制もその時々で変わっていくものだと思います。

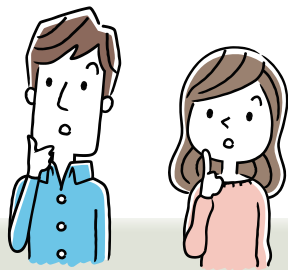
こどもを直接支援している我々の責務として、実態をしっかりと政策決定者に届けていく役割があることを改めて痛感しました。

最後に

本研修を企画し、鹿児島県内の様々な事業所の方々に参加していただき、ネットワークづくりのきっかけをつくれたのではないかと感じています。

今後も、事業所間で連携をしながら、一人として取り残すことのない社会の実現を目指していければと思います。

(経営企画部長：水流大樹)



マイ フィールド My Field



地域生活支援センターあさひが丘
言語聴覚士

永山 理香

Q 1 現在のお仕事内容について教えてください。

児童発達では、主に子どもの言語発達の検査、構音検査、言語のコミュニケーションの検査を行っています。放課後等デイサービスになってくると、読み書きとか学習の評価もしています。検査した内容と集団での様子が差がないかな、あるとしたらどんなかな、やり取りがどのくらいできているかなしながら必要に応じて介入しています。ユニット(児童入所)では、言語発達の検査を行っていて、長期的にみているので訓練も行っています。訓練したり、評価したものを現場にフィードバックして、現場職員も訓練してくれています。継続的にして、伸びている子ども達もいます。成人部の嚥下(嚥下障害)をみえています。自分で自分の行動をかえることが大変な方ばかりなので、この方だったらどうできるか、その方の負担にならないように考えています。

Q 2 永山さんのなかにも葛藤があって、どこまで利用者、職員の負担になり過ぎずにできる最高レベルを探っているのですね。

それが一番難しいですね。その方の機能、子どもの口の発達、成人になると歯が抜けていたり、顎自体が噛むのに適していなかったりといういろいろあるので、日々、鍛えられ、勉強ですね。

Q 3 落穂会に入職される前はどのようなお仕事をされていたのですか？

それは、病院ですね。ずっと病院です。ほぼ成人。大人の方の脳血管障害からくるお口の麻痺、失語症の方のリハビリをしていました。子どもさん自体は、時々単発でという形でしたね。今子どもたちをみている、脳が障害されたことで起こる症状と、発達障害でもっている症状で似かよったところがあって、すごく役に立っています。

Q 4 ずっと同じ病院に勤めていたんですか？

総合病院に勤めて、オーストラリアに3ヶ月、その後市役所に少し勤めていました。あさひが丘に入職する前は、総合病院に20年勤めていました。あさひが丘に勤めて5年経ちます。

Q 5 総合病院に20年勤めていらっしゃったんですね。オーストラリアは、どのような経緯で行かれたんですか？

オーストラリアの日本大使館や学校に自分で手紙を書いて手続きをして、ホームステイしながらオーストラリアの学校に2ヶ月、旅行を1ヶ月楽しんで、オーストラリアの銀行口

座も作りました。20代なので何でも経験できることはやっておこうという気持ちでした。(笑)

Q 6 すごくですね。色々な経験が今に繋がっているんですね。仕事をしていて楽しさややりがいを感じることを教えてください。

言葉じゃなくても気持ちが共有できたときは、すごく嬉しいですし、やりがいを感じます。発達障害を持っている子たちの視点や動きは、すごく興味深いというか面白いというか、いろいろ発見するとすごくいいと思います。こんな風にみえるんだ、思うんだ、ここ分っているんだなという発見がやりがいになります。現場職員から「やってみたら上手いききました」という言葉も嬉しいです。

Q 7 少しプライベートな部分も聞かせて下さい。趣味や休日の楽しみは？

ヨガをしています！6～7年続けています。スポーツも得意というわけではないですが、後輩に誘われて始めました。

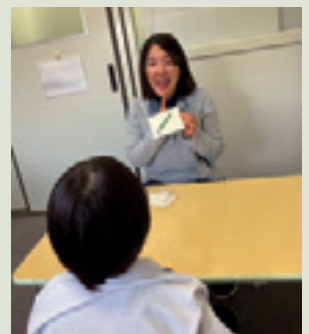
Q 8 ヨガいいですね。

コロナでなかなか行けませんが、もともと旅行とか買い物とか、ドライブが好きで、研修・旅行・呑みをセットにして友だちと出かけていました。勉強もして友だちと会って呑んで話をして一回で色々おいしい。(笑)

Q 9 学びの場所に行って、友だちと会う約束をして、呑んで、カラオケに行って、結構ハードですね。(笑)カラオケも好きなんですね。何を歌うんですか？

昭和(の曲)ですね。(笑)

カラオケ、いいですね。今度一緒に行きましょう!!!今日はありがとうございました。



あさひが丘学園での思い出 あさひが丘学園Bユニット 米山 博之さん

私は、たくさんの人の支えがあったからこそ、今まで学園生活を楽しく過ごすことができました。友達とケンカをした時にいつも相談にのってくれた職員。職員は、ユニットのみんなのためにたくさんのことを頑張っていて私は、すごいと思っています。ほめられたこと、しから



れて、たくさん涙を流したこともあります。でも、職員にいろいろなことを教えてもらったからこそ私たちは、笑顔で過ごせているんだと思いました。まいにち、一緒にあそんだり、時には、ケンカをしたりもしました。でも友達と過ごせた時間は、今となっては、大切な思い出です。たくさんさんの友達と出会えたことがたのしかったです。次の場所にいってもみんなのことは、忘れません。これから楽しいこと大変なこと、たくさんあると思うけど、無理せず自分のペースで頑張ってください。応援しています。学園生活ありがとうございました。

「ゆっくり、じっくり」

旭福祉センター 保護者 平山 まゆみさん

旭福祉センターさんへ通い始め早2年。息子紘丈(こうすけ)は20歳を迎えました。

幼少期から多動、言葉遅れ、五感の過敏、こだわりと自閉症特有の性質を受け持ったため、未知の世界での子育ては理想とはかけ離れ、抱えきれない不安の連続で、毎日が押し潰されそうだったことを思い出します。そんな一喜一憂の日々の中で、色々なことを一緒になって泣き笑い迷っての生活を過ごしていくうちに「ゆっくりで遠回りしているように見えても、それが僕の近道なんだよ」と息子から焦らず歩幅を合わせることの大切さを教わった気がします。

そんな息子は、ネガティブにとられそうな五感過敏とこだわりを上手く作用し、大好きだった恐竜から絵本に興味を持ち、絵本から文字を覚え、漫画チックな独自キャラの絵描きの趣味まで持つようになり、また一方ではスマホで音楽やゲーム攻略動画を検索して楽しむ今時の成人にも成長してきました。好きなもの、好きなことを見つけ楽しんでいる姿は羨ましくもあります。

3年前のコロナ禍の環境変化で、心身のバランスが崩れ、不安定な状態だったにも関わらず、旭福祉センターさんには受け入れて頂いたこと本

当に感謝しております。ありのままの息子を受け入れ、急かさず足を止め支えて頂いたからこそ、凝り固まっていた心身がほぐれ、通所2年目にして、やりがいを持ちながら活動参加できる日が少しずつ増えているのだと感じています。時より持ち帰る虫君たちには、ほっこり。その日の楽しかったことの分身ですね。

未だ収束しないコロナ禍の中で、更に多くのご苦勞を職員の皆様にはお掛けしておりますが、何時も暖かく心を寄せ、安心できる環境を作って頂きありがとうございます。

息子紘丈には、上手い出来ないことやワクワクするような発見を繰り返す中で、ゆっくりでも色々なものを吸収して、型にはまることなく自分なりの人生を思いっきり楽しんで欲しいと願っています。



地域生活支援センター

café&sweetsあすもね家取材

令和5年1月27日(金)、「かごしま近代文学館・かごしまメルヘン館」の開館25周年を記念してKTSの「かごnew」の取材が入り、ワークショップあすもね(就労継続支援B型)が運営する「café&sweetsあすもね家」もかごnewで紹介されました。令和4年7月のオープン当初は、初めてcafe業務に就く利用者也、厨房での業務やお客様の対応など、多くの不安を抱えながらのスタートでしたが、今回の取材で堂々と調理する自分の手元がテレビに映ると、照れくさそうな笑みと自信に満ち溢れた表情を見せ、成長と頼もしさを感じました。



あさひが丘

地元アーティストによる施設等でのワークショップ

川商ホール主催の「地元アーティストによる施設等でのワークショップ」があさひが丘にて開催されました。12/24、12/19、1/20の計3回、音楽のワークショップが開催されました。講師として内原圭乃さん(マリンバ、打楽器)と榎木浩美さん(ピアノ)のお二人が来てくださいました。マリンバとピアノの美しい音色の演奏を聴かせてもらったり、珍しい楽器に触れさせてもらい貴重な体験となりました。また、身近な物(ペットボトル、新聞紙、食器など)を使って皆で音を出してみたりと音や音楽と沢山ふれあうことが出来てとても楽しい時間でした。



アニマルセラピー

学園で週1回アニマルセラピーを実施してくださっている、セラピストの溝口和代さんの活動をNHKさんが取材している中で、学園でのセラピーの様子も撮っていただきました。2/21(火) 情報WAVEかごしま「かごしま一番星」で放映されました。



新成人おめでとう

グループホーム あさひが丘



楳 楓 さん

大人になった私は、これからも色々なことにチャレンジしてりっぱな大人になりたいです。



有満 奈月 さん

好きなことや楽しいことをして毎日笑顔で過ごしたいです。活動も頑張ります。



椿松 輝 さん

これからも、できることをがんばり、笑顔でみんなを幸せにしたいです(*^へ^*)」



坂木 晃尚 さん

年一回行われる検診で命拾いました！体力をつけて元気に過ごしていきたいです。

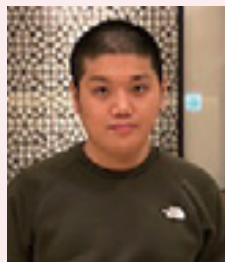
あさひが丘学園

障害者支援施設 旭福祉センター



宮脇 芳大 さん

小松菜の袋詰めをがんばります。



平山 紘丈 さん

リサイクルを頑張ります！



内原 翔向 さん

かなた!! さぎょう!!
頑張る!! エイエイオー!!



山崎 真昼 さん

将来、おかねを貯めて一人暮らしをしたい。大人になったので、伯父や伯母に恩返しをしたい。今やっているパン作り以外にも一般企業への就職にも挑戦したい。

●春山地区初日の出登山

令和5年元旦に行われた初日の出登山は早朝の暗い中から始まります。塚田池尾神社にぞくぞくと人が集まり、地域の方々と一緒にあさひが丘学園、グループホームあさひが丘の利用者も参加しました。懐中電灯を片手に、子どもから大人まで、皆で協力して山を登り、丸岡山の頂上で万歳三唱し、初日の出に健康・幸せをお祈りしました。

●春山地区鬼火焚き

1月7日に鬼火焚きが行われました。グループホームあさひが丘から利用者も参加しました。鬼火焚きを囲みながら、暖を取り、地域のあいご会からぜんざいや豚汁が皆に振舞われ、美味しく頂きました。これからも地域との交流、伝統行事への参加を行い、生活の楽しみの1つに出来たらと思います。

●アンリーシュマルシェ

1月7日より3日間、山形屋1号館3階のアンリーシュにて「ワクワクスクエア」の販売会がありました。ASAHIYAからはトートバッグ、レザー雑貨、フラワーボトルを出品し、「キリンのハンカチを使っています!」「見たことある絵だ!」など、ありがたいお言葉をいただくこともあり、ASAHIYA商品が広まってきていると実感することができました。

●関係機関研修会

1月12日(木)に今年度2回目となる、関係機関研修会を実施し、幼稚園、保育所、保健センター、児童発達支援事業所等、計20名の方にご参加いただきました。当日は当法人の言語聴覚士による、ことばとコミュニケーションについての講話と動画視聴を通じた研修を行いました。

●児童発達・放課後等デイサービス合同保護者会

1月21日(土)に児童発達・放課後等デイサービス合同保護者会を実施し、会場参加者29名、オンライン参加者34名、計63名の方にご参加いただきました。当日は当法人の放課後等デイサービスを利用されている保護者の方より「これまでの子育てについて」、職員と対談形式でお話しいただきました。

●療育発表会

1月28日(土)に療育発表会を実施し、歩路、希路、セルク、トリア、ルウより、計116名のお子さまが参加しました。当日はマルヤガーデンズの会場をお借りし、午前2部、午後2部の4部制で行いました。日頃の療育の様子について、保護者の皆さまに見ていただく機会となりました。

●家族並びに施設職員研修会

2月4日、鹿児島サンロイヤルホテルにて「家族並びに施設職員研修会」が開催されました。「自閉症の僕が飛び跳ねる理由」の著者、東田直樹氏

によるオンライン講習では、ご本人が支援を受けている時の感情や日々望んでいる支援などについて知ることができました。保護者の講演では、あさひが丘学園保護者会の川畑岩夫会長より、これまでのたくさんの写真やエピソードに添ってそれぞれの想いを、また、働く利用者ご本人の講演では、自分の課題と向き合いながら日々楽しく仕事に取り組んでいる話などを聞けた貴重な研修でした。

●KAYOフェスタ

2月8日、鹿児島養護学校にて行われたKAYOフェスタに卒業生である利用者と参加しました。実行委員長であるあさひが丘学園の生徒が中心となってKAYOフェスタを盛り上げ、学校全体が賑わっていました。ぎゅらリーASAHIYAにもたくさんのお客様が来られ「素敵な作品ですね」とお褒めの言葉をたくさんいただきました。

●ナイスハートバザール

2月16日(木)～19日(日)山形屋の大催場にて、鹿児島県内の社会就労センター(障害者就労支援事業所等)で生産・製造された商品が展示販売され、旭福祉センターからも出店しました。小松菜、深ネギ、人参等の野菜や菓子、陶芸品を販売しました。

●きょうだい児支援会

2月18日(土)、こどもサポートセンターあさひが丘にてきょうだい児支援会を実施し、6家族(12名)にご参加いただきました。当日は、親子レクリエーションや写真フレーム制作を行いました。参加したお子さまより「楽しかった」と感想をいただき、来年度も継続して実施する予定となっています。

●農福連携マルシェ2023春の収穫祭

3月3日(金)～4日(土)アミュ広場にて開催。「農業」と「福祉」の連携。「ノウフクマルシェ」は、鹿児島県内の障害者就労支援施設・事業所等で生産された農産物や加工品の販売を通して、生産に携わった障害者が自ら販売することによる自信や達成感を図ることを目的として開催しています。旭福祉センターからも出店しました。

●うららふいんぐ展

3月26日に伊集院のカフェラグタイムで第二回うららふいんぐ展を開催しました。今回のイベントは音楽をテーマに庭をレイアウトし、他事業所(まうるーるさん、ふるさと学園さん)の素敵な作品とASAHIYA作品のコラボレーションとなりました。ASAHIYA作品では、日々の創作活動やアートDAYから生まれた、プレーメンの音楽隊の家のオブジェや、布に描いた大きな絵画など、温かい世界観で会場を彩りました。引き続き、作品を通して様々な方達との交流を行っていききたいと思います。

カフェ&レストラン
NODOKA

のどか

じっくり煮込んだ鶏肉の旨味たっぷりやわらか！
トマトの酸味もほんのり、優しいあじわいです。
沸騰したお湯に15分茹でただけ！忙しいときに
ぜひいかがですか？



レトルト「骨付き鶏のトマト煮込み」 **500円**(税込)



ふんわりやわらかに焼き上げています。
トーストでもそのまま食べるのもおすすめです。
店舗では好みの厚みにカットできますのでス
タッフにお声掛けください。



榎オリジナル食パン **300円**(税込)

今回紹介するメニューは「キッズパンケーキ」です。「くま」
をイメージしたパンケーキにフライドポテトがついたお子様に大
人気のメニューです。(¥440) 生地には豆乳を使用し、お子様の
体にも優しくご家族に喜ばれています。

メルヘン館内にて営業をしているcafé & sweetsあすもね家は、
お子様連れのお客が多く来店します。キッズパンケーキを目に
した瞬間、「すごーい！」「かわいい★」と見た目でも楽しんで
頂いております。

暖かく過ごしやすい季節となりました。外出される機会も増え
てくるかと思ひます。是非、ご家族お揃いでお越しください。

〒892-0853 鹿児島市城山5-1
かごしまメルヘン館喫茶室
☎070-8823-0051
営業時間 平日 11:00～17:00 (L.O16:30)
※土日祝 10:00～
定休日 火曜日(※メルヘン館に準ずる)



キッズパンケーキ **440円**(税込)

**ぎやらりーASAHIYAより
新作紹介**

☆猫キーホルダー☆

ニャンニャンと今にも鳴きだしそうな猫。

愛くるしく見ているだけで心が和みます♪

実際の猫と同じように様々な猫キーホルダーがあり、全てがオリジナル。

猫好きには勿論、そうでない方にとっても癒しになるでしょう。



ぎやらりーASAHIYA

インスタ絶賛更新中！
【 #gallery._asahiya 】



社会福祉法人 **落穂会**
鹿児島市皆与志町 2503 番地
<http://www.asahigaokagakuen.jp/>
<http://www.asahi-center.co>

障害児入所施設
あさひが丘学園
TEL 099-238-4821

障害者支援施設
あさひが丘
TEL 099-238-4821

地域生活支援センター
あさひが丘
TEL 099-243-1112

障害者支援施設
旭福祉センター
TEL 099-244-3551

障害福祉サービス事業
第二旭福祉センター
TEL 099-244-3551